

## 第2学年1組 音楽科学習指導案

第3校時 場所 音楽室 授業者 馬場 美香

### 1 題材名 くりかえしをつかって、おまつりの音楽をつくろう

おまつりの音楽は、我が国の伝統音楽であり、大勢が共通の拍にのって太鼓や笛を演奏することが多く、まつりを盛り上げるために重要な役割を果たしている。また、その特徴として、短いリズムパターンが反復されること、かけ声や合いの手などが反復を生かす要素となっておまつりらしさを引き出すことにつながる。太鼓の響きや音の流れの心地よさや一体感を子どもたちにも味わわせたいと考えた。しかし、実際に太鼓を一人一人に用意することは難しく、演奏場所にも制約がある。

そこで今回は、音楽室にあるカホン椅子を教材として活用することにした。このカホン椅子は、普段は子どもたちが座ったり机として使ったりしている身近な存在である。響き線が入っていないため、通常のカホンよりも素朴で太鼓に近い音色が得られるという特徴をもつ。一人一個のカホン椅子を用いることで、全員が太鼓のような響きを体で感じながら演奏に参加し、友達と響き合う心地よさを味わうことができるようにする。

また、体育祭で体験した盆踊りや日本の太鼓のリズムを想起しながら、表したいおまつりのイメージを膨らませ、思いをもって表現を工夫できるようにする。本実践では、身近な教材の特性を生かした音楽づくりを通して、子どもたちが音を通じて関わり合い、一体感をもって表現をつくり出す姿をめざしていく。

### 2 題材について

- (1) 本題材では、おまつりの音楽を聴いたり、音楽づくりをしたりする活動を通して、リズムと反復に注目し、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取ることをねらいとする。また、子どもたちは、太鼓や掛け声のくり返しがもたらす高まりや一体感を体で感じながら、音の流れの面白さや拍のそろった心地よさに気付いていく。身近なカホン椅子を使って、太鼓に似た響きを確認しながらリズムを反復したり、あえて違うリズムを演奏したりすることで、音を通して仲間と関わり合う楽しさを味わうことができるようにする。

このような学習を通して、リズムの反復やつながりが生み出す表現の面白さに気づき、仲間と響き合いながら音楽をつくり出そうとする態度を育成することをねらいとする。

- (2) これまで、拍の流れや言葉のリズムを意識して歌ったり、動物の鳴き声で反復したり呼びかけたりこたえたりしながら、友達のリズムとつなげて楽しんだ。本題材は、反復を生かして、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもち、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付けることを目指す。この経験は、中学年での旋律やリズムを組み合わせた合奏や音楽づくり、さらに高学年での和音や形式を生かした音楽表現へと発展していく基盤となる。

- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)

- ① 本学級の子どもは、音楽に合わせて楽しく歌ったり、体を動かしたり、リズムに合わせて手拍子をしたり、楽しんで音楽活動に取り組むことができる。
- ② 手拍子の模倣は全員できるが、簡単なリズムうちが苦手な子どもが10人いる。

### 3 題材の目標

- (1) 太鼓の音やリズムのつなげ方の特徴に、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くと

ともに思いに合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、リズムをつないで表現する技能を身に付けることができる。

- (2) 音色やリズムを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったことを関連させて思いをもつことができる。
- (3) 太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。

#### 4 指導計画（5時間取り扱い）

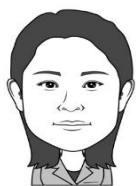
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 教師のつくった音楽を鑑賞して、題材の見通しをもつ。	○ おまつりの音楽を鑑賞し、まつりの音楽には、反復が用いられていることに気付かせる。 ○ どのような「おまつりの音楽」にしたかを確認、表現したいおまつりのイメージに合うリズムを組み合わせたり反復の表現を楽しんだりする活動を設定する。	【思・主】音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、演奏の楽しさを見いだして聴いている。 (観察、ワークシート)
2・3・4 (本時)	2 グループで反復を使ってリズムの組み合わせ方を工夫し、「おまつりの音楽」をつくる。	○ 中間発表の際、反復に気付きやすくするために色分けしたリズムカード楽譜を提示し「なぜ、そのリズムを選んだか。なぜ、その反復にしたか」を問い、自分の思いを友達に伝える活動を設定する。その際、「思い」「反復の仕方」「リズム」で共通しているところや違いに注目して友達のつくった音楽を聴く活動を仕組む。 ○ 中間発表会で共有したことについて、自分たちのグループの音楽にどう生かすかを考えさせることで、各グループの作品にも見いだした音楽の仕組みを生かすことができるようにする。	【思・主】リズムを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととを関連させて思いをもつことができる。 (観察、ワークシート) 【知】太鼓の音やリズムのつなげ方の特徴と、それらが生み出す面白さなどを関わらせて気付いている。 (観察、ワークシート) 【技】思いにあった表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けている。 (観察、ワークシート)
5	3 演奏を楽しみ題材全体の学習を振り返る。	○ 作品を発表し合い、自分たちの作品について作品紹介を書かせることで、表すイメージ、そのために工夫した表現とそのよさ、及び学びの過程を振り返らせ、本題材での学びを自覚できるようにする。	【主】太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。 (観察、振り返り)

## 5 本時の学習

(1) 目標 リズムをつなげて表したい思いが伝わるかという視点で交流する活動を通して、反復のよさや面白さに気づき、思いをもって「おまつりの音楽」をつくることができるようにする。

### (2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時に出た意見を振り返り、繰り返しについて考える。	○ どのリズムがよいかまとまらなかった時には「どんなおまつりの音楽にするか」表したいテーマに合うことを意識すればよかったね。 ○ 繰り返しには2つ連続と、4つ連続とかがあるし、いくつか種類がありそうだ。
10	2 抽出したグループの発表を鑑賞して、よさと工夫のについて意見を交流する。	○ 4小節を2回繰り返したよ。子どもたちがおどるお祭りだから、回るように繰り返したい。ドドンコで飛び跳ねて、ドンウンで落ち着いて、またドンドンと繰り返すと回している感じ。合わせやすくてそろえて、楽しく進んでいる感じを出したよ。 ○ ドンドンの部分を繰り返したけど、楽しくなるのかなとわからなくて困ったな。だから、中間発表でみんながどんな感じがするか聞きたい。どんな繰り返しの仕方があるのかみんなからアドバイスをもらいたい。
20	3 自分たちの音楽をつくり直す。 ・演奏を聴く ・楽譜に表す ・思いを更新する	○ 同じリズムを使って繰り返すと、ノリノリになって盛り上がってより楽しそうな感じが伝わるよ。 ○ テーマが同じだけどリズムや繰り返し方が違うな。 ○ 同じリズムを繰り返すだけじゃ面白くないから、繰り返した後はもっと細かいリズムを使って、さらに元気になっていく感じを表そうよ。 ○ 「ドンドン ドンドン」とくりかえしがあると、歩きながら太鼓をたたいて安定した感じがでるね。このあと、八分音符のドコドコとリズムが細くなると子どもが踊り出した感じがでるんじゃないかな。
10	4 本時を振り返って次時の見通しをもつ。	○ 私たちのリズムは、子どもが太鼓をたたいて、にぎやかなまつりのイメージです。最初は、「ドンドン ドンドン」と同じリズムを繰り返すことで、次のドコドコのリズムが細くなるとにぎやかな感じが伝わるということが分かりました。さところさんから「ドンドンドンドンとくりかえすと、聞いている人も太鼓をたたきたくなるようなまねしたくなるようなイメージだね」と言ってもらえました。元気な感じのイメージが伝わって嬉しかったです。次は、私が力強く楽しく演奏をして、聞いてくれる人も元気になれるような発表をしたいです。



前時までに「いろいろな人が楽しくたいこをならしているまつり」「子どもたちが踊りたくなるまつり」等と表したいおまつりのイメージをリズムで表現してきた子どもたち。本時では、困っているグループにアドバイスをする活動を通して、反復のよさや面白さに気付くことができるようにしていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 色付きのリズムカード楽譜を提示することで、同じリズムを反復していることに視覚的に捉えやすくする工夫をして、2小節連続した反復と1小節目3小節目が同じサンドイッチ反復の仕方があることに気付くことができるようにし表したいテーマによっても反復のよさや面白さが違うことに気付くことができるようにする。【音楽づくりの条件】

（3人で8小節。テーマ：何をしていた、どんなイメージのまつり。繰り返しを使用する。使用する楽器は響き線無のカホン）

- 前時までにどんな繰り返しがあったのか子どもの考えを何パターンか示すことで、音楽づくりの条件に基づいて、どんなリズムや繰り返しの仕方をしていたのか思い出すことができるようにする。
- 困っているグループを取り上げてそのグループの楽譜を示し、反復に着目して聴くよう促すことで、反復のリズムに着目させていく。その上で「この繰り返しでたのしくなったのか」と問うことで、反復の面白さや演奏から感じ取ったよさについての考えを表出させた上で、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- 大型テレビ
- ホワイトボード
- マーカー
- リズムカード
- 学びのあしあと

表したいまつりをイメージするためには、どんな繰り返し方がいいのかな。

- 聴いている子どもたちも発表している子どもたちの演奏のあとに繰り返させることで、カホンから伝わる振動や手の動きでリズムのよさや表したい思いを感じ取ることができるようにする。
- 常に口唱歌しながらリズムづくりをすること、リズムに繰り返しを使うことを助言し、おまつりらしさを感じながらリズムづくりができるようにする。
- 表現の工夫に満足している姿が見られた場合は、互いに今作っている音楽を聞き合う場を設けることで、テーマと反復表現の工夫を関連づけながら音楽づくりをしていたのかを見直すことができるようにする。
- 机間指導の際、リズムの反復や変化のよさや面白さに気付いて音楽づくりをしているグループがあれば取り上げて全体に共有し、再考する際の材料とする。
- リズムの反復や変容を捉えてそのよさを具体的に伝えたり価値付けたりすることで、思いやリズムの工夫した過程を見直し、次の表現に生かせるようにする。
- テーマに合う反復を使ったり、リズムを変化させたりしていると考えを振り返っている子どもを見取り、指名して発表させることによって、作品に込めた思いと表現の工夫との関連について自覚することができるようにする。

【評価】

反復の仕方を考えてリズムの組み合わせ方を工夫し、思いをもって「おまつりの音楽」をつくっている。  
（観察・振り返り）